

インテリアデザイン教育の企画・実践におけるプロセスと考察

前田久美子 佐藤美保子^a

^a 湘北短期大学非常勤講師

【抄録】

本稿では、2年間2名の非常勤講師がインテリアデザイン教育を本学129教室と図書館においてクリスマスディスプレイをテーマに、プロジェクト学習として取り組み考察している。その結果、実践的な学習であるアクティブラーニングが学習活動の意欲やコミュニケーション能力の発達に効果をもたらすと考えられた。今後のインテリアデザイン教育の授業運営と研究について、継続的に考察することとする。

【キーワード】

インテリアデザイン アクティブラーニング 実践的プロジェクト学習 可視化 社会性 教室 図書館

1. はじめに

各々の筆者は、本学生活プロデュース学科の非常勤講師として実践的なインテリアデザイン教育に取り組んでいる。2012年度より2名で担当している、「インテリアディスプレイと収納計画演習」の授業は年度ごとにテーマを変える、時代に即し社会性を重視した柔軟性のある学習運営を目指している。筆者前田久美子は、25年以上インテリアデザインの実務者であり、本学の特徴である産業界との連携者のひとりである。本稿のテーマ以外にも、「インテリア計画」（1年前期）、「インテリア雑貨とファニチャーデザイン」（2年後期）の

授業も担当している。筆者佐藤美保子は、インテリア設計の実務に携わりながら、本学の特色ある教室の複数の設計・デザインに関わってきた。また、生活プロデュース学科の非常勤講師として、「インテリアコーディネーション」（1年前期）「創作絵本の制作」（2年前期）の授業も担当している。

本稿では、教員がインテリアデザイン教育をどのようなプロセスで支援し、成果と実績を積み上げてきたのか、教員の視点からプロセスと実態を分析し考察する。

2. アクティブラーニングの定義

文部科学省ではアクティブラーニングについて、次のように述べている。『教員による一方的な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修

<連絡先>

前田久美子 maeda@shohoku.ac.jp

佐藤美保子 mihoko@shohoku.ac.jp

への参加を取り入れた教授・学習方法の総称。学修者が能動的に学ぶことによって、認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を行うことでも取り入れられる。』1)

本稿において、「アクティブラーニング」という用語を用いるときの意味も、これに準じている。

3. 問題の所在と研究方法

本論文の目的は、2012年から7年間取り組んできた本学129教室でのインテリアデザイン実習による能動的な学習活動を、2014年から2019年までを取り上げて、年度ごとに考察し、授業展開の変化とその成果について検証する。

本来大学では、高い専門性と研究における問題設定および論理的思考力の上に、解決力と社会性、個々の多様性が育成されることが望まれる。そのため、産業界との連携は学修の強化につながる。さらに企業のニーズを反映したカリキュラム編成は、学生の学修目的の明確化となり、就職活動の一助として活用することが期待できる。

大学教育において、2018年6月19日一般社団法人日本経済団体連合会が「今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言」を発表した。その中に、2018年4月17日第15回中央教育審議会大学分科会将来構想部会の抜粋で、学修ポートフォリオシステムの整備・PDCAの確立による学修成果の可視化を取り上げている。

このように質の高い専門性の育成には、論理を実践する学習カリキュラムと環境が必要である。インテリアデザイン教育においても同様であり、それらを実践的プロジェクト学習で実現し、学習

展開はどうあるべきかを問題として取り上げる。

はじめに、クリスマスディスプレイを、グループワークでクライアント不在のアクティブラーニングに取り組んだ2014年から2017年の4年間の実績を振り返ることとする。129教室のインテリアショールームが学習活動の場となり、事例を年度ごとに掲示しながら、目的とテーマ、特徴、学修者の到達度の変化について報告する。

次に2018年と2019年は、新たな展開としてクライアントがいる実践的プロジェクトを2つのグループに分けて取り組んだ。2019年は、図書館(2018年度・2019年度)と、129教室のインテリアショールーム(2019年度のみ)の2ヶ所が学習活動の場となった。これまでの学習展開と共通する点、相違する点、学習の到達度の変化を考察し、分析する。

最後に分析した結果から、新たな発見や問題点、アクティブラーニングの活用方法と実態をまとめていき、今後の授業展開について役立てていくことにする。

4. 今までの実績



2014年

(受講者 25名)

- 目的 : グループでテーマを創造し、形にまとめていく方法を学ぶ。
テーマ : White & Red
2014年のクリスマスの傾向を調査・分析し、
テーマ企画をして、完成させる。
特徴 : 4つのニッチ状になっている壁面(高さ680×幅850×
奥行350)の中を、非言語で表現する。
それぞれの国のクリスマスを表現。
到達度 : 空間とモノ、寸法の関係性を理解する。
ものをつくる楽しさに気づく。



2015年

(受講者 20名)

- 目的 : グループでテーマを創造し、形にまとめていく方法を学ぶ。
テーマ : FUN!
2015年のクリスマスの傾向を調査・分析し、
テーマ企画をして、完成させる。
特徴 : 4つのニッチ状になっている壁面(高さ680×幅850×
奥行350)の中を、非言語で表現する。
色や素材にこだわっている。
到達度 : 空間とモノ、寸法の関係性を理解する。ものをつくる楽しさ
に気づく。プレゼンテーション力を身につける。



2016年

(受講者 18名)

- 目的 : グループでテーマを創造し、形にまとめていく方法を学ぶ。
テーマ : 北欧のクリスマス
2016年のクリスマスの傾向を調査・分析し、
テーマ企画をして、完成させる。
特徴 : 4つのニッチ状になっている壁面(高さ680×幅850×
奥行350)の中を、非言語で表現する。
インテリア用品を購入。食器類は調理室からお借りした。
到達度 : 空間ともの、寸法の関係性を理解する。ものをつくる楽しさ
に気づく。プレゼンボードの表現力を身につける。



2017年

(受講者 16名)

- 目的 : グループでテーマを創造し、形にまとめていく方法を学ぶ。
テーマ : ヴィンテージクリスマス
2017年のクリスマスの傾向を調査・分析し、
テーマ企画をして、完成させる。
特徴 : 4つのニッチ状になっている壁面(高さ680×幅850×
奥行350)の中を、非言語で表現する。
インテリア小物やテキスタイルを購入。
到達度 : 空間ともの、寸法の関係性を理解する。
ものをつくる楽しさに気づく。インテリア図面の表現が出来る。

5. 実践的プロジェクト学習の目的とテーマ

5-1 シラバス

講義名	ディスプレイ・収納計画演習			担当教員
講義開講時期	後期			氏名
科目名(英語名)	DISPLAY&STORAGE DESIGN			◎前田 久美子
対象学科等	生活プロデュース学科			佐藤 美保子
学年	1年			

単位数	1単位
授業方法	演習
授業で取り入れているアクティブラーニングの要素について	グループディスカッションやディベート、人体寸法を活用したディスプレイ実習
履修条件、準備等	様々なインテリアの情報から、自分が好きなインテリアリストや雑貨を集めておいてください。
授業の具体的到達目標	自分の生活を題材として、豊かに暮らすとは何かを考えて具体的な手法を学びます。 ①自分の寸法や好みの傾向を分析する。 ②美しい空間のための方法を学び、計画することができる。 ③クリスマステーマに、グループでディスプレイ演習する。 ④収納における思考を身につける。
授業の概要	快適な生活空間は、ひとの立場から考えられた工夫にあふれ、住まい手の好みに彩られています。人間工学の視点を踏まえて、「空間・ひと・モノ」の関係をライフスタイルから発想したディスプレイ実習と収納計画演習で理解することを目指す。

	授業計画	授業時間外の学習(予習・復習の内容)	担当者
1回	ガイダンス	事前にシラバスを読み、授業計画のおおよその流れを把握する(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
2回	自分を知る1 人間工学	長さの単位を復習しておく。自宅の机と椅子の大きさを計測しておく(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
3回	自分を知る2 ティスト分析1	自分の好みのインテリア情報を集めておく。できるだけ、空間全体が見えるものが望ましい(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
4回	自分を知る3 ティスト分析2とコラージュボード作成	課題におけるインテリア情報の過不足を検討する(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
5回	ディスプレイ1 色の基礎知識とディスプレイの手法	配布資料を復習する(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
6回	ディスプレイ2 ブラン実習	好きな空間の壁を観察する(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
7回	ディスプレイ2 ブラン実習完成	好きな空間の壁を観察する(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
8回	ディスプレイ4 クリスマスディスプレイ実習	2018年クリスマストレンドキーワードを調べる(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
9回	ディスプレイ5 クリスマスディスプレイ実習	グループディスカッションができるようアイデアを準備する(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
10回	ディスプレイ6 クリスマスディスプレイ実習	グループことで、準備をする(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
11回	ディスプレイ7 クリスマスディスプレイ実習完成とレポート作成	ディスプレイにおける気付きと自分の考えをまとめておく(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
12回	収納計画演習1 整理と収納の違い	自分の部屋のモノの種類と量を調べておく(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
13回	収納計画演習2 収納実習	自宅のクローゼットの様子を調べる(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
14回	収納計画演習3 グループ実習	衣類などを持参するための準備をする(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
15回	収納計画演習4 グループ実習完成とレポート	収納について、自分の意見が述べられるようまとめておくこと(1H)。	前田久美子 佐藤美保子
試験等	プレゼンテーションとレポートとする。		

成績評価	授業態度 30%・授業内課題 30%・レポート2回 40%
課題(試験やレポート等)へのフィードバック	プレゼンテーション時に、評価と解説します。

	書名	著者	ISBN	出版社
1	ラクラク突破のインテリアコーディネーター合格本	町田ひろ子アカデミー	9784767817460	エクスナレッジムック建築知識

備考	2名以上の複数担当者(佐藤美保子)。実習中心であり、自学自習上のアドバイス、マルチメディアの利用、パワーポイントを利用したスクリーン使用の授業です。資料は講義ごとに配布しますので、ファリングをしてください。行事予定により、内容変更があります。質問がある場合は、講義終了後などで対応します。
----	--

5-2 129教室の特徴

創造と実践を試せる学習空間である。

「イメージを形にする教室」と「ディスプレイの実践の場」の2つのゾーンで構成されている。

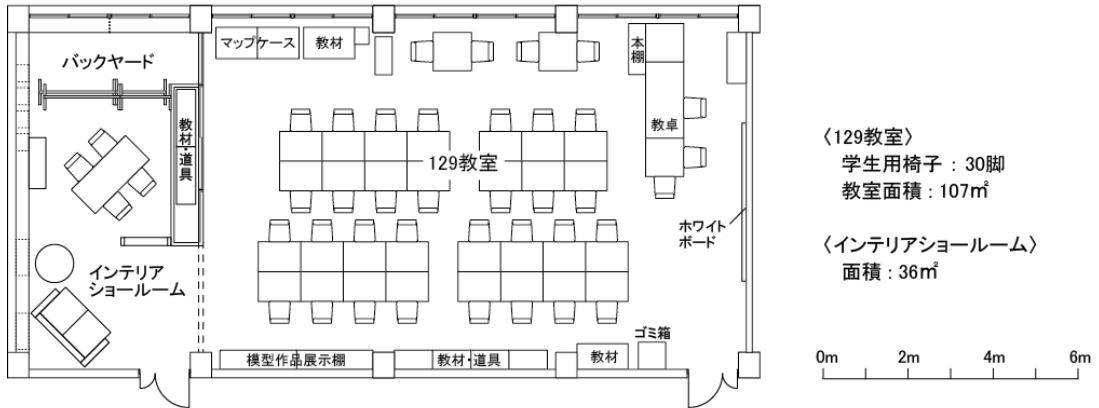


図1 129教室・インテリアショールーム 平面図

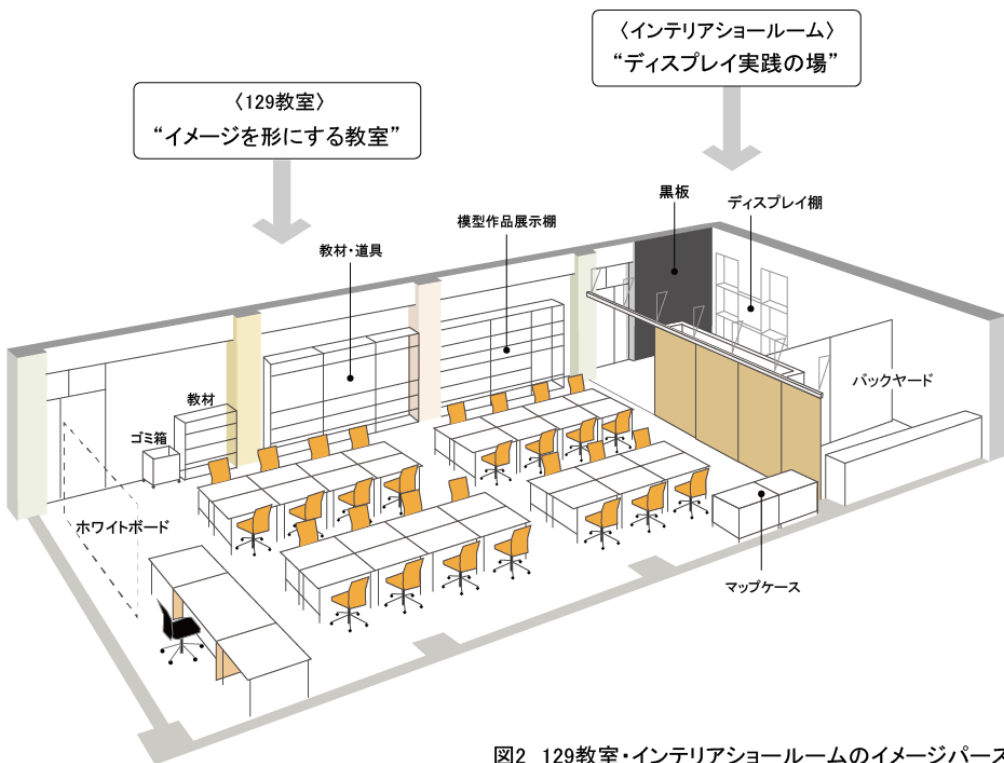


図2 129教室・インテリアショールームのイメージパース

6. 実践的プロジェクト事例

6-1 《図書館クリスマスディスプレイプロジェクト2018》

目的：グループでテーマを創造し、形にまとめていく方法を学ぶ。

● スケジュール

2018年	作業内容	学習した能力						
10/5 (金)	・ 図書館の印象を書き出す	情報処理・ 企画・発想・ ディスカッション						
10/12 (金)	・ 図書館でヒアリング							
11/2 (金)	・ イメージのまとめ							
11/9 (金)	・ グループ分け							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Aチーム</th> <th>Bチーム</th> <th>Cチーム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ディスプレイの検討</td> <td>・ ディスプレイの検討</td> <td>・ 図書館の オススメポイントを探す</td> </tr> </tbody> </table>	Aチーム	Bチーム	Cチーム	・ ディスプレイの検討	・ ディスプレイの検討	・ 図書館の オススメポイントを探す	デザイン力・設計力・コミュニケーション力・運営マネジメント力・スケジュール管理能力
Aチーム	Bチーム	Cチーム						
・ ディスプレイの検討	・ ディスプレイの検討	・ 図書館の オススメポイントを探す						
11/16 (金)	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>・ ディスプレイの検討 ・ オーナメント作成</td> <td>・ ディスプレイの検討 ・ マントルピース作成</td> <td>・ ディスプレイの検討 ・ 本棚の背面色の検討 ・ 図書館マップのイメージ ・ しおり作成</td> </tr> </tbody> </table>	・ ディスプレイの検討 ・ オーナメント作成	・ ディスプレイの検討 ・ マントルピース作成	・ ディスプレイの検討 ・ 本棚の背面色の検討 ・ 図書館マップのイメージ ・ しおり作成				
・ ディスプレイの検討 ・ オーナメント作成	・ ディスプレイの検討 ・ マントルピース作成	・ ディスプレイの検討 ・ 本棚の背面色の検討 ・ 図書館マップのイメージ ・ しおり作成						
								
								
								
11/30 (金)	・ 大物搬入、制作	対応力・ 調整力						
12/7 (金)	・ 搬入、完成							
12/10 (月) ～ 12/21 (金)	展示期間	プレゼン力						
1/11 (金)	・ レポート作成	客観性・ 目標提示						

(受講者 20名)



印象を書き出す



ヒアリング



イメージのまとめ

《キーワード》

本がオブジェになる。
座ってみてもらおう。
参加型企画。
インスタ映え。
香り、音楽。

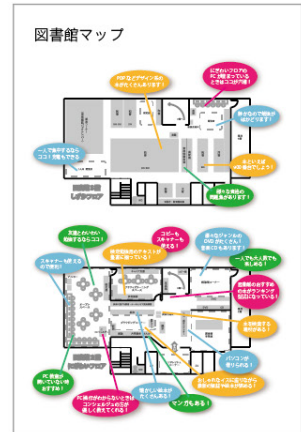
《テーマ》

本と共に
～with a book～

インテリアデザイン教育の企画・実践におけるプロセスと考察



〈リフレッシュコーナー A〉



展示を見て頂いた方々から、「本学の図書館オススメポイント」の声を集め、マップを作成した。



〈リフレッシュコーナー B〉



〈螺旋階段吹抜けコーナー〉



◎ 図書館の皆様からの声

- ・リクエストの、「みなさんに足を運んでほしい」という希望が、叶いました。
- ・想像以上の出来映えです！
- ・図書館で行っていることに、興味を持ってもらえた。(授業とコラボしていることなど)
- ・学科を越え、学年を越えて、沢山の方が足を運んでくれて、写真を撮ってくれた。
- ・展示開始前の、ある程度の物が搬入された段階から、写真を撮る学生が多く居た。
- ・ツリーのオーナメントが絵本であることに気付いた時に、とても嬉しかった。
- ・プレゼントのラッピングも、学んだことを活かしていて素晴らしい。
- ・ツリーの前や、クマさんのあたりで写真を撮る学生が多かった。
- ・手作りのマントルピースにビックリ。感動。
- ・レンガの壁は大掛かりなことで大変だったと思いますが、雰囲気が出てとても良かった。
- ・ランプが暖かい雰囲気、とても和んだ。普段は閉館時間は寂しい雰囲気だったが、クリスマスディスプレイがあることで、働いている自分たちも癒された。
- ・入口のソファセットがなくなったものの、ツリー横のテーブルと椅子のところで、座ってみたりする学生もいた。そこでアイスを食べながら楽しむ学生もいた。
- ・外から見上げたときにも、星型ライトやツリーが見えて綺麗。
- ・螺旋階段部分のディスプレイがとても素敵。という声も沢山いただいた。
- ・螺旋階段部分の本棚に、オススメの本を選んでもらったのが嬉しかった。そして、そのディスプレイにもこだわるところが、素晴らしい。
- ・図書館のオススメポイントの参加型企画が、とても嬉しい。結果が楽しみ。

オリジナルのしおりをデザイン・作成し、配布。
「お気に入りのディスプレイで写真を撮る」ことを
行い、パネルを展示した。



展示会後半には、図書館の皆様からの感想を伺い、
プロジェクトの振り返りへ、つなげた。

6-2 《129教室・図書館クリスマスディスプレイプロジェクト2019》

目的：グループでテーマを創造し、形にまとめていく方法を学ぶ。

●スケジュール

(受講者 22名)

2019年	作業内容	学習した能力					
9/20 (金)	・129教室、図書館の印象を書き出す。グループ分け	情報収集・企画・発想・ディスカッション					
9/27 (金)	・図書館でヒアリング						
10/4 (金)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align: center;">129教室チーム</td> <td style="width:50%; text-align: center;">図書館チーム</td> </tr> <tr> <td>・現状、要望、NG事項の書き出し 129教室、図書館の印象と合わせて、模造紙にまとめる</td> <td>・現状、要望、NG事項の書き出し 129教室、図書館の印象と合わせて、模造紙にまとめる</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">※ここまでの作業は、両チームが2箇所の対象空間の情報収集と情報処理を行い、情報共有をしている</td> </tr> </table>		129教室チーム	図書館チーム	・現状、要望、NG事項の書き出し 129教室、図書館の印象と合わせて、模造紙にまとめる	・現状、要望、NG事項の書き出し 129教室、図書館の印象と合わせて、模造紙にまとめる	※ここまでの作業は、両チームが2箇所の対象空間の情報収集と情報処理を行い、情報共有をしている
129教室チーム	図書館チーム						
・現状、要望、NG事項の書き出し 129教室、図書館の印象と合わせて、模造紙にまとめる	・現状、要望、NG事項の書き出し 129教室、図書館の印象と合わせて、模造紙にまとめる						
※ここまでの作業は、両チームが2箇所の対象空間の情報収集と情報処理を行い、情報共有をしている							
10/25 (金)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">・コンセプト決め ・ポスター作成</td> <td style="width:50%;">・コンセプト決め ・ポスター作成、しおり作成</td> </tr> </table>	・コンセプト決め ・ポスター作成	・コンセプト決め ・ポスター作成、しおり作成	デザイン力・設計力・コミュニケーション力・運営マネジメント力・スケジュール管理能力			
・コンセプト決め ・ポスター作成	・コンセプト決め ・ポスター作成、しおり作成						
11/8 (金)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">・デザインの検討 ・購入品リスト作成</td> <td style="width:50%;">・デザインの検討 ・購入品リスト作成</td> </tr> </table>	・デザインの検討 ・購入品リスト作成	・デザインの検討 ・購入品リスト作成				
・デザインの検討 ・購入品リスト作成	・デザインの検討 ・購入品リスト作成						
11/15 (金)	・大物、小物の設置、制作	・デザインの検討、制作					
11/22 (金)	・大物、小物の設置 ・制作	・大物搬入、制作					
	 <p>←129教室チームの展示会ポスター</p>  <p>↑図書館チームの展示会ポスター</p>  <p>↑学生オリジナルデザインのしおり</p>						
11/29 (金)	・制作、完成	調整力・プレゼン力・客観性					
12/2 (月) ~ 12/20 (金)	展示期間	次への目標提示					
12/20 (金)	・プレゼンテーション、レポート提出						



印象を書き出す



ヒアリング



イメージのまとめ

《テーマ》

129教室

129教室メンバーが手掛ける
Christmas House
～ホワイトウィンター～

図書館

“本のツリーで湘北を知ろう！”

〈129 教室〉

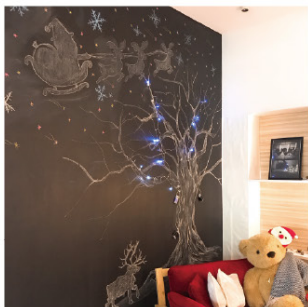
129 教室メンバーが手掛ける Christmas House ～ホワイトヴィンテージ～



リビングルームをイメージした空間



ダイニングルームをイメージした空間



コンセプトやメッセージを表す
黒板アート



紙のみで作成した
家ライト



手作りの食品サンプルを含む
テーブルコーディネート

129 教室は、普段使用している学生達自らがクライアントとなり、話し合いの結果、“居心地の良い空間”、“座って楽しむ”ことを目指した。

◎クライアントの感想

- ・コンセプトの範囲内で、メンバーの好みでディスプレイを行った。
- ・ライトのイメージは要望通りになった。
- ・黒板アートと照明が、良い雰囲気。
- ・テーブルディスプレイが良く出来た。
- ・大人っぽい雰囲気を出すことができた。
- ・今までは、荷物が多く暗いイメージの部屋でしたが、明るく素敵な演出ができた。
- ・空間を奥まで使いたかったが、荷物やバランスを考慮し、半分まで使用した。
- ・足跡はラミネートをしたが、剥がれてしまった。



現場でプレゼンテーションを行い
図書館チームからの感想も聞いた。
プロジェクトの振り返りレポート
を完成させ、次の学習への目標
提示が出来た。

沢山の方々に足を運んでもらうために、展示期間中にイベントを3回企画。また、教室へと誘うサンタとトナカイの足跡を作成した。



〈図書館〉

本のツリーで湘北を知ろう！



4カ所の出入口がある リフレッシュコーナー



エレベーター A からの目線



エレベーター B からの目線



廊下からの目線

本のツリーは、全てレプリカで、学生が作成。選書は、本学の3学科それぞれのオススメ本。



本のツリー横には、本にまつわるクイズがあり、立ち止まって見てもらえる仕掛けを考えた。

◎クライアントの感想

- ・昨年度と同じ"クリスマス"というテーマであるのに、全く違う雰囲気です素晴らしい。
- ・色数が少なく、大人っぽい印象を受けました。
- ・本のツリーとして本を全面的に出し、またシンメトリーになっていて温かい中にスマートさを感じました。
- ・ヒアリングが反映されているおかげで図書館前を通るのが楽しくなりました。
- ・クイズが図書館ならではの内容で、気になる人や聞いてくる人が多かったです。(1週間に8人、1日に2,3人)
- ・先生方と保育学科の学生が大人数で楽しんでいました。
- ・どの世代でも楽しめて、写真を撮る人が多くいました。

↑インテリアの配置は、3箇所のエントランスからの見え方にこだわっている。

↓プレゼンテーションで使用するパネル。コンセプトとなるキーワードが書かれている。物語風のプレゼンテーションは、“伝えたい”、“聞いてもらいたい”という想いが良く伝わっていた。



現場でプレゼンテーションを行い、129 教室チームからの感想も聞いた。プロジェクトの振り返りレポートを完成させ、次の学習への目標提示が出来た。

7. 考察

本研究では、インテリアデザイン教育の企画とプロセスを実践的プロジェクト学習と位置づけて、アクティブラーニングによる授業運営とその成果についての関係性を明らかにすることが目的である。クライアントがいる条件で取り組んだ2018年と2019年の授業展開は、より実践的であり、広範な専門知識を横断的に組み立てられる特徴を持つ。

7-1 前期科目との連携

2018年度以降、各筆者が下記の科目を担当し、学生の習熟度と問題点について連携を図ってきた。1年前期の科目であり、それぞれの授業はインテリアの必要性和楽しさ及び生活に興味を持たせるという重要な役割を担った授業展開としている。

数年、描くこと、寸法への抵抗感を持つ学生は少なくなかった。2018年からは、おおよその学生は描くことに抵抗感が少なくなり、空間においても想像する力が芽生えていた。自由にアイデアを創造し、紙に線や色、形を用いながら、他者へ自らの考えを伝える多様性のある意見交換ができていた。言葉のみでなくデザイン力を用いてコミュニケーションする力が育成されていたと判断することができる。企画の決定から完成まで約1回分の作業時間の短縮を図れたことと、学生の指示待ちの姿勢が減少したことが明らかな成果といえる。

1年前期 「インテリア計画」前田久美子

- ①インテリアデザインの歴史を理解する。
- ②インテリア計画の考え方、進め方を習得する。
- ③間取りから暮らしを読みとることができる。
- ④インテリア構成材を理解する。

1年前期 「インテリアコーディネート」

佐藤美保子

- ①ものづくりのストーリーを習得する。
- ②模型制作の基本的な技術を習得する。
- ③空間を立体的に理解する。

7-2 授業運営の工夫

◎インテリアデザイン教育のプロセス

インテリアデザインの本質は、ひとと空間、そしてものをつなげて快適な生活を創造することである。そのために何が必要で、どうすべきか、何ができるかを、各々や他者とともに考えて、実行する力をアクティブラーニングで習得することを目指した。また実践的プロジェクト学習を取り入れることで、クライアントインタビューから、企画、デザイン、設営、運営、片付け、成果の分析、プレゼンテーション、今後の提言まで、インテリアデザインの現場を一連で学習できる。学生自身がプロセスを追う学習方法は、到達目標が明確であり、常に学習の位置が確認しやすく、聞き出す力、整理分析する力、企画する力、実現する力を総合的に学修できる利点がある。

◎導入

クライアント（顧客）がいる実践プロジェクトである意識と責任の自覚を高めるために、全体像と流れを把握する工程から取り組んだ。ホワイトボードを活用した項目出しと工程を認識することや、現場で必要な技術、知識、挨拶、ヒヤリングの進め方、情報の記録と整理の方法について、学生が自ら取り組めるように具体的に明示する講義展開を行った。これらは、問題設定力と解決力、及び社会性の育成につながることを目的にした支援である。2019年は、2つのプロジェクトを取り組むためグループ分けが必要となったが、全員で

話し合い、自主的に分けることができた。チームワークや協調性は、前期講義との連携の成果であり、個の多様性を受け入れたグループ編成を行う主体性の成長も確認できた。人数比は、図書館グループ10名、129教室12名となった。

◎情報収集・情報処理

2018年、2019年ともに学生各々がヒヤリングで何を聞けばよいのかを抽出して、その後、全員で30分程度のディスカッションを行った。このとき教員は、具体的に指導は行っていない。ディスカッション後、教員が不足していた項目を取り上げて、予算や利用者数、扱ってはいけないアイテムなど、インテリアデザインのプロセスや現場で、必要な項目と理由を指導して理解を深めた。情報収集の準備を整えて、学生が1時間程度のインタビューを行った。場の構成を組み立てる椅子のレイアウトからはじまり、挨拶、質問、終了の挨拶まで、すべて学生が運営を行った。クライアントインタビューでは、要望をなるべく正確に聞き出せるよう具体的に問いかけること、聞き出したいことが上手に聞き出せない場合、その場で質問を変えてもう一度聞き出す工夫をするなど他者と連携を図ることが課題である。学生は、適宜協力をしながら、周囲と筆談などで相談してすすめ、その場の対応力を駆使して質問をより確信へと導き、50項目程度の内容を聞き出すことができた。

2018年は、課題全てを全員でディスカッションする方法で取り組んだが、発言が多い学生と発言しない学生がそれぞれ全体の2割程度を占めていた。教員は、全員をひとつのテーブルに集めて、情報の整理の手順の指導を行った。消極的な姿勢から発言が増えたものの、教員が質問を投げかけて気づくなど、分析からコンセプト立案まで教員の支援が必要であった。

2019年は、情報処理をまずグループごとでディスカッションし、模造紙に書き出し掲示した。このことは、プロジェクトが完成するまで、学習の課題が発見しやすくなり、解決するために必要な情報の振り返りに役立った。問題分析も加えた情報の可視化は、コンセプトに基づいた一貫したデザインを進める一助になっている。

◎デザイン力・設計力・コミュニケーション力・運営マネジメント力・スケジュール管理力

2年にわたり、クリスマスディスプレイで図書館の利用者を増やすことが課題のテーマとなった。インテリアデザイン教育において、ひとの存在に興味を持つことは、最も重要なことである。「誰かのために考える」というインテリアデザインの本質を、グループワークで他者と関わり、実行し、運営する一連の学習でコミュニケーション力やマネジメント力を身につけた。さらにインテリアデザインの現場そのものを体験することで、より高い専門性と達成感を習得する学習展開につながった。

2018年は、10月5日～12月7日までが取り組み期間である。図書館の印象を書き出し、ヒヤリングした後に、教室で情報処理を行った。全員でデザインコンセプトを考えて、3つのチームが担当内容ごとに分かれて完成まで取り組み、3つの内容を最後に連結させる方法で完成させた。各グループの作業の内容や進行状況について、興味を持って関わる学生が少なく、全体的な活動という意識が希薄であったことが問題点である。

2019年は、9月20日～11月29日までが取り組み期間である。初回講義で、グループ分けと129教室と図書館の印象を書き出した。改めて次の講義で、全員で図書館のヒヤリングに臨んだ。

情報処理はまず担当ごとのグループワークで行い、模造紙にまとめて、最終的に教員とともに整理する作業段階を経たことが、前年度と異なる点である。コンセプト立案からは、学生がそれぞれアイデアを保有していたため、教室にPCを活用して情報と経緯をまとめるよう支援した。デザインは、アイデアそのものが大切であり、そのことを理解するきっかけとなり、波及効果として作業効率も高まった。

また新たな取り組みとして、運営マネジメント力の育成を加えた。各グループ1万円の予算を計画して、商品の在庫状況や配送費用、納期、教員への稟議まで取り組んだ。学生はアイテムの数や大きさ、商品詳細情報を調べることで、ものに対する見方がわかり知識が広がった。さらにデザインの過程で、適切なもの選びができるようになり、予算管理やマネジメント力が習得できた。最後に図書館の利用者数を増やすこととインテリアデザインコースの取り組みの認知度を向上させる2つの目的を実現するために、ポスター制作から掲示まで、本学教務課に交渉する場面を設けた。教員や他学科の学生へのインフォメーションの企画やイベントの運営は、教員不在のときも、学生が主体的に役割分担をし運営することができた。

◎学修成果と分析

図書館来場数 1日平均約100名増加、インテリアデザイン教室来客数約70名のインテリアデザイン教育の成果である。それぞれの場に置かれた感想ノートや学生自ら声掛けをして誘致し、責任感を持ってイベントを運営し、直接感想を聞く学生の意欲的な姿勢も確認することができた。アイデアに優れている、作業が得意である、気配を察して動けるなど、学生の資質は様々である。教員は、2019年新たな取り組みとして1. グループ

ワークでお互いが意見を言える環境をつくること、2. 意見がまとまらないことは日常的に起こること、3. 問題点を書き出して、わかりやすく論理的に意見をまとめるように工夫することを加えている。

このように実践的プログラムの学修は、学生の意欲を引き出し、主体性を高めることができる。また実現性をともなうインテリアデザイン教育の成果は、クライアントの感想や反応を体験できることにある。教員以外から受ける客観的評価は、汎用的能力の育成に大きな役割を果たすと考える。

8. これからの課題

筆者は、本学での7年間の教育現場を分析し、学習プロセスの組み立てが学生の意欲と学修成果を高める要因と考えられた。また実務者として産業界から求められる資質や能力を、教育現場につなげて支援することは、質の高い専門性の学習につながり、学生が期待する学習であることもわかった。

今後の課題として、技術の習得を多角的に学習できる横断的カリキュラムづくりが必要なことである。他教科との連携により、総合的に到達度のレベルを高めることができる実態をとらえて分析する。

教員の視点で、時代とともに現場の手法をアクティブラーニングで取り入れ、更なる実践的なカリキュラムを構築していく。それが学生の汎用的能力の育成にどのような影響を与えるのかを、学習展開とその成果について研究していく。

参考資料1

本学2019年度後期 相互授業参観週間 教職員コメント一覧を掲載することとする。

①授業の印象

図書館をクライアントと設定。学生からの質問に図書館員が回答。事前準備、代表者からの挨拶、セッティングなど細やかなところまで行き届いた対応でした。

②学生の反応

事前準備から緊張感のある態度で臨んでいた。全員からの個別質問もしっかり考えられており、具体的で発想豊かなものが多かった。

③参考になった点・改善した方がよいと思われる点

事前準備から授業まで、教員の指導が行き届いている点は見習うべき点でした。

参考資料2

「インテリアディスプレイ及び収納計画演習」2012年から2019年 平均出席率 90%

引用・参考文献

1) 文部科学省 中央教育審議会(答申)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」平成24年8月28日)用語集より

Process and consideration in planning and practice of interior design education

Kumiko MAEDA, Mihoko SATO

【abstract】

In this paper, two part-time teachers study interior design education as a practical project on the theme of Christmas display in the classroom 129 and the library at the university. Learning development is based on active learning, and incorporates a learning process that visualizes learning connected to society with the PDCA cycle. We will continue to study the development of lessons and the results of learning that will expand the willingness to acquire advanced specialized knowledge and individual diversity and lead to the development of sociality.

【key words】

interior design , active learning , practical project learning , visualize , social , classroom , library